

THE GLOBAL SANCTIONS INDEX (GSI): 世界の制裁動向を見極める



LSEG RISK
INTELLIGENCE

執筆者紹介



Michael Meadon Sales Director, Customer & Third-Party Risk Solutions – Asia Pacific

LSEG（ロンドン証券取引所グループ）アジア地域のカスタマー・アンド・サードパーティ・リスク・ソリューションズ部門を統括。

主要製品であるWorld-Check Risk Intelligence、Digital Onboarding、LSEG Due Diligenceを含む、LSEGの市場開拓戦略、製品戦略、コンテンツ戦略の策定に携わる。特に規制、業界、技術開発に関する動向を把握し、お客様のニーズを満たす製品の革新、開発に注力している。

World-Check Risk Intelligenceチーム

[World-Check®](#)は制裁を受けた個人や団体に関する広範かつ包括的な情報を提供します。世界各地の制裁情報担当チームが24時間365日体制であらゆる制裁リストをモニタリングしており、特にOFAC（米財務省外国資産管理局）、国連、欧州連合、英国財務省、スイス連邦経済省経済事務局、フランス経済財政産業省、豪州外務貿易省、香港金融管理局、シンガポール金融管理局、日本国財務省、カナダなどの主要な制裁リストに重点を置いています。

500名以上のリサーチ担当者が在籍し、そのうちの90%以上がマルチリンガルのスキルを有しています。現在、World-Checkの制裁スクリーニングでは300以上の制裁プログラムがカバーされており、アクティブな制裁レコードの数は6万を超えます。1万以上のグローバルな情報リソース・リスト、800以上の制裁、規制、法執行機関のリスト、5,900以上の官公庁／政府のウェブサイトをモニタリングしており、毎月5万件以上のレコードを新たに追加しています。

エグゼクティブ・サマリー

Global Sanctions Index(GSI)は、全ての明示的制裁リストに記載されている制裁対象者から重複分を除いた総数の年間増加率、すなわち制裁インフレという概念を導入したもので、2021年に2回発行されています。

2023年4月、GSIは319.6となり、前年同月比の増加率は25.4%（第2版の14.6%、初版の11.2%から上昇）でした。

絶対数でみると、現在世界の制裁対象者数は6万人を超えており、基準日である2017年1月から320%増加しました。

その他、以下のような興味深い統計情報が報告されています。

- 中国の独自制裁プログラムによる制裁は現在、GSIに含まれるサブインデックスの中で最も増加しており、同国が管理する4つの独自プログラムによる制裁の年間増加率は43.5%である。
- OFACは制裁範囲を拡大し続けており、制裁の年間増加率は21.1%である。
- 欧州連合による制裁の増加率は近年低下したが、それでも年間22.9%である。
- 英国財務省が管轄する英国の独自制裁プログラムによる制裁については、ここ数か月間は急速な増加が見られず、増加率は1月の65%から年間16%へと低下している。
- 日本国財務省が管轄する制裁の増加率は23.3%である。
- オーストラリアの独自制裁レジームによる制裁の増加率は26.6%である。
- 国連の制裁レジームによる制裁の増加率は低いまま推移している。

コンセンサスに基づく国連の制裁は、世界の制裁全体に占める割合が低下し続けていることもあり、現在、世界全体の1.75%を占めるに過ぎません。

上記を踏まえても、全体的な制裁の増加は長期的なトレンドであり、ロシアのウクライナ侵攻を起因とする近年の増加は、世界レベルで歴史的に前例のない数の制裁をもたらしたというわけではありません。

概要

Global Sanctions Index(GSI)は、全ての明示的制裁リストに記載されている制裁対象者から重複分を除いた総数の年間増加率、すなわち制裁インフレという概念を導入したもので、2021年には2回発行されています。

この革新的な指標は、世界のあらゆる制裁レジームを追跡する市場トップレベルのWorld-Check Risk Intelligenceデータを活用して、世界の制裁対象者数の純増減を監視します。

2023年4月までのデータに基づく最新版では、制裁を取り巻く現在の概況や、2022年8月に算出を開始したサブインデックス（国連、欧州連合、OFACなどの主要な制裁プログラムに連動）の最新情報と制裁対象者に関連する、顕在化していない追加的リスクに関するインサイトを提供します。

変化の実態

2023年4月のGSIは**319.6**であり、前年比で**25.4%**増加しました。比較用の数値は次の通りです。

- 2022年4月、当社がレポート初版を作成した際のGSIは253、増加率は11.2%。
- レポート第2版を公表した2022年8月のGSIは273、前年比14.6%の増加。

この間、ネットベースで1万2,000人以上が制裁対象者として追加され、現在は6万を超える個人とエンティティが制裁対象となっています。世界的な制裁の増加率は、2021年4月から2022年10月の間に落ち着きましたが、本月は直近のピークであった2021年6月の増加率に迫っています。ロシアに対する制裁も一因となり、増加率は過去約2年間における最高水準に達しています。しかし、次のグラフに示されている通り、制裁の増加は、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻より以前から起きていた現象です。

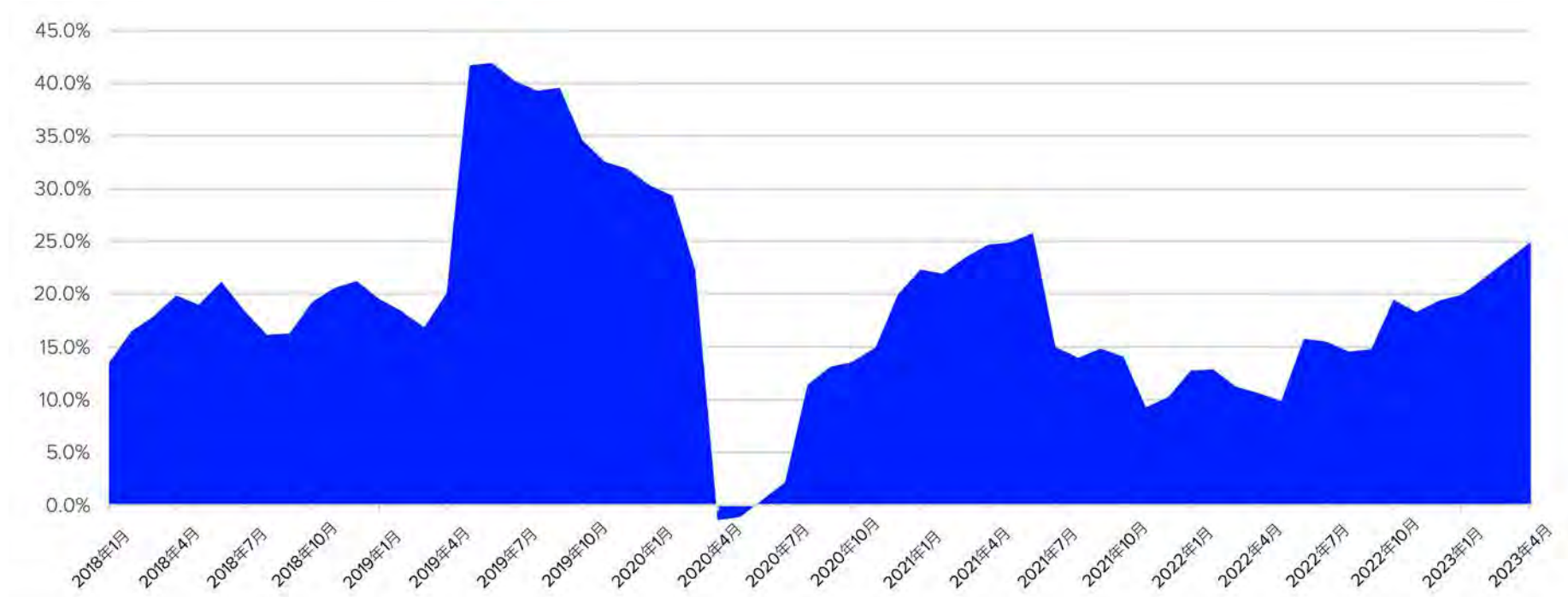
サブインデックス

世界的な制裁に関するデータを補足するために、主要な制裁プログラムに連動するサブインデックスも作成しました。

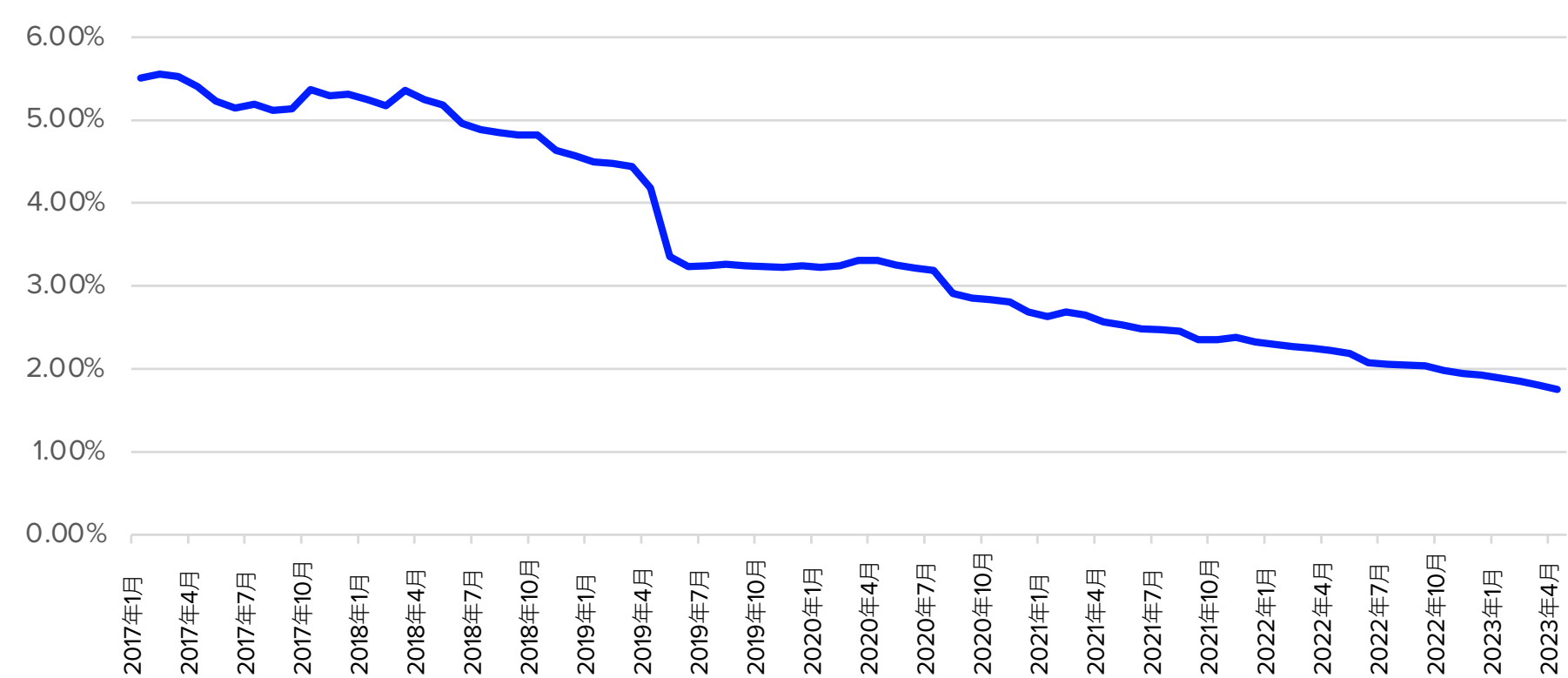
以下は2023年4月時点のデータです。インデックスの基準日(=100)は2017年1月に設定されています。

- OFACの**年間制裁増加率は21.1%**、インデックスは219.4。
- 欧州連合の**制裁増加率は22.9%**、インデックスは205.7。
- 日本の財務省による**制裁増加率は23.3%**、インデックスは206.1。
- 豪州外務貿易省の監督下にある自主制裁プログラムの**制裁増加率は26.6%**、インデックスは314.1。
- 欧州連合とは別に自主運用されるようになった英国の制裁による制裁数はこの数か月間穏やかに推移。現在の増加率は**16%**、インデックスは198.5。
- 中国の4つの自主制裁プログラムの**制裁対象者はGSIがカバーする制裁プログラムの中で最も速く増加。昨年の増加率は43.5%**、インデックスは534.5。中国の制裁は低水準から始まったものの、米国やオーストラリアと比べ、依然として対象総数が増えるに少ないことは注目に値する。
- 国連の制裁数は低水準を維持。年間増加率は0.4%、インデックスは101.7。現在、世界の制裁者数に占める国連の制裁者数の割合は、過去最低の1.75%。

制裁増加率のグローバル・データ (2019年8月～2023年4月)



世界の制裁対象数に占める国連による制裁対象数の割合 (%)



リスクのつながり - その他のリスクの特定

制裁対象者は明らかなリスクをもたらします。多くの場合、そうした人物との取引は禁じられており、多額の罰金を科されるリスクや、最悪の場合、風評被害を引き起こすリスクに見舞われます。

このような明らかなリスクに加えて、制裁対象者はその他のリスクをもたらす可能性があります。

2022年、World-Checkは、Special Interest Categories(SIC)と呼ばれる新たなデータ機能を実装しました。この機能は、制裁対象者に関連する可能性があるその他のリスクについて情報を提供します。

SICは、World-Check上の大部分のレコードを、戦争犯罪や司法妨害など、66のさまざまなタイプのリスクへ分類します(リスクの分類については[こちら](#)でご確認ください)。この機能を利用することで、制裁対象者に関連する潜在的なネガティブな情報をすべて分類し、タグ付けすることができます。

このサンプルの母集団は、明示的な制裁を受けた全ての人物、すなわち世界中の制裁リストに記載されている個人、企業、その他のエンティティです。制裁と関連のないその他のリスクに焦点を合わせるため、制裁関連のSICを厳密に除外しています。

「制裁と関連のないその他のリスクに焦点を合わせるため、制裁関連のSICを除外しています。」

制裁レコードにおける他のリスク



結果を分析してみると、最も顕著なのは、あらゆるリスク・カテゴリーが網羅されていることです。World-Checkの66のカテゴリーのうち、4つが直接制裁に関連しています。

- 明示的な制裁
- 黙示的な制裁
- 過去の明示的な制裁
- 過去の黙示的な制裁

それらを除外すると、制裁に関連のない62のリスクが残ります。驚くべきことに、制裁対象のユニバースにはそれらすべてのリスクが含まれています。

個人のリスクをみると、「テロ関連」のリスクが群をぬいていることが分かります。9.11同時多発テロ以降、テロ行為は制裁の最重要点となり、実際、現在も国連のプログラムなど複数の制裁プログラムでは重要項目として扱われています。制裁記録のおよそ半分以上がテロに関連するSICにタグ付けられていることから、現時点でテロ行為が最も関連性の高いリスクであることは明らかです。

さらに掘り下げてみると、犯罪に関連するリスク、特に粗暴犯罪 (3,500レコード以上)、マネーロンダリング (2,900レコード以上)、武器・弾薬の不正取引 (1,900レコード以上)、組織犯罪 (1,400レコード以上) などのリスクが確認できます。これは、過去10年に見られた傾向を反映したもので、制裁がもっぱら国際犯罪に対抗するために用いられてきたことを示しています。例えば、米国のキングピン制裁プログラムでは、主要な違法薬物業者が制裁の対象となっています。

また、数は多くはありませんが、グリーン犯罪 (動物密輸などの野生生物犯罪、環境汚染や産業廃棄物の投棄などの環境犯罪) とエネルギー犯罪 (化石燃料の密輸、不法取引など) の重複は、制裁対象の顕在化されていないリスクを表しています。レコードの記録数は、野生生物犯罪が21、エネルギー犯罪が18、環境犯罪が10と、数は多くはありませんが、異なるタイプのリスクにおける重複の程度を示しています。

「制裁記録のおよそ半分以上がテロに関連するSICにタグ付けられていることから、現時点でテロ行為が最も関連性の高いリスクであることは明らかです。」

まとめ

私たちの分析は、ある重要な課題を浮き彫りにしています。すなわち、あるチームに制裁に関する調査を、別のチームに公的地位を有する者(PEP)の調査を、さらに別のチームにネガティブ・ニュースやESGを担当させるなど、スクリーニングとデューデリジェンスに関してサイロ化されたアプローチを取ると、リスクの相関関係の全容が掴めない状況に簡単に陥りかねないということです。その結果、特定のリスクが完全に見逃されてしまうことになりかねません。

例えば、ある企業で特定の制裁リストを用いたスクリーニングを行わないとの決断がされたとします。業務を展開している法域や国など、さまざまな事情を考慮しての決断だったかもしれません。しかし、企業の取引相手となる制裁対象者は、テロ行為、詐欺、組織犯罪などの制裁には関連のない他のリスクをもたらす可能性があります。つまり、X国の企業が法域を理由としてY国に関する制裁に関心を持たずにいると、制裁に関連のないリスクに対して脆弱になる可能性があります。

統合的なアプローチを取りつつ、あらゆるリスク・カテゴリーを網羅した単一の総合スクリーニング・プログラムを開発することが、今日の金融業界においてスクリーニングのアプローチとして選好されるようになってきています。この場合、金融犯罪を担当する単一のチームを介して、複数のチームが第1段階の結果（アラート判定など）に対応することになります。アラート判定後に、特定の制裁、PEP、ネガティブ・ニュースに関する結果を担当チームへエスカレーションすることで、専門性を維持することができます。

リスクは多元的なものであり、単純かつ明確にグループ分けすることはできません。むしろ、包括的な方法で見直し、評価、管理する必要があります。入念に設計されたスクリーニング・プログラムと、詳細に文章化され、定期的に監査の対象となるデータ選定プロセスは、いずれも非常に重要です。

メソドロジーに関する注記

Global Sanctions Indexは、2017年1月(=100)を基準としています。このインデックスは、LSEG World-Check Risk Intelligenceのデータが追跡したすべての明示的な制裁レジームを含み、「制裁」のキーワードタイプに該当するあらゆるキーワードをカバーしています。例えば、OFACの50%ルールによる制裁などの暗黙の制裁は、この分析から除外されます。

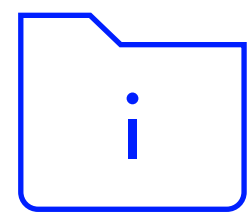
追跡対象としている制裁レジームは非常に幅広く、通常テロを理由にとして科されるコンセンサス方式の国連の制裁から、各国が発動する自律的制裁、欧州連合などの地域機関が発動する制裁までさまざまです。

制裁対象の指定理由も、テロへの関与やテロ資金供与の疑い、違法薬物の不正取引に関する指定（キングピン法の指定など）、核拡散、人権侵害、汚職、選挙干渉の疑い、ウクライナ侵攻に対するロシアへの制裁など多岐にわたります。

制裁が及ぼす影響や制裁の厳しさは考慮されませんが、例えばブロックリング命令、渡航禁止、投資禁止などは含まれています。同様に、自然人、企業、信託、船舶、航空機についても、すべての制裁対象が含まれています。

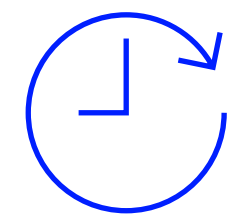
ソリューションの特長

制裁コンプライアンスに関するLSEGのソリューションの特長をご紹介します。



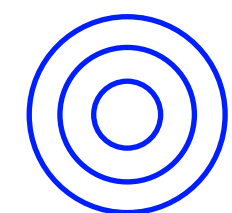
信頼性の高いインテリジェンス

調査手法と収録基準は非常に厳格なガイドラインに従い、セキュアな品質管理を適用しています。



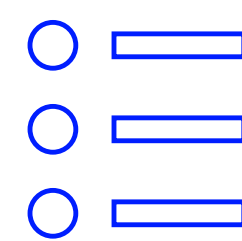
最新の情報

五大陸すべてに調査センターを置き、制裁リスト、規制および法執行のリストに加え、何千もの信頼できるメディア・ソースを24時間体制でモニタリングして、正確な最新情報をお届けします。



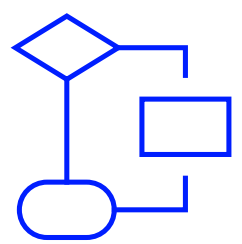
対象を絞ったスクリーニング

データは何百という特定キーワードによるフィルタリングとドリルダウンが可能で、対象を絞り込んだスクリーニングにより、誤検出を減らします。



デューデリジェンス・レポート

間接的な制裁へのエクスポージャーを完全に把握するためには、企業の詳細な所有権構造や特定の個人の資金源を明らかにするための一歩踏み込んだ努力が必要です。



マネージド・サービス

マネージドサービス・チームによる継続的なモニタリングは、最新のプロファイルの把握やバックログの回避に役立ちます。

リスク&コンプライアンス・シリーズでさらに詳しく



Global Sanctions Index – 初版および第2版(英語版)

[全文を読む](#)



フィンテック企業のAML対策における課題: 将来に向けたインサイト(英語版)

[全文を読む](#)